

浅草岳 (早坂尾根下山) 山行記録



振返れば守門岳



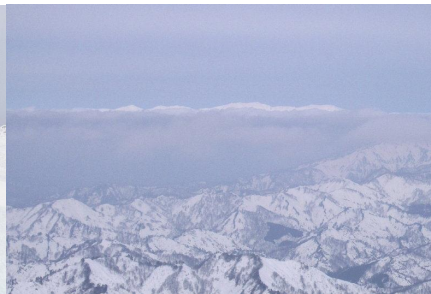
早坂尾根



浅草岳頂



穴を掘ってベンチ



雲の上に飯豊連峰



広い尾根を快適に下る

目的地	浅草岳	期 日	平成21年3月8日 (日)・曇のち晴れ
山人	笠原正雄・中野茂・森山トシ子	特 記	3年目の早坂尾根。今回は下山コースにしてみる。

地点名	時刻	記 事
与板発	午前6:00	入広瀬道の駅のトイレを使う。一部路面が薄く凍っている。
大自然館傍 P	7:25~7:35	先着者がスタートして行く。準備中もう一台来る。いずれも単独山スキー男。カンジキ、スノーシューを履いてすぐに雪に上る。凍みているので歩きやすい。先行スキーヤーは林道白崩橋の手前で杉林に上っている。そのトレースに従う。
雑木林で休む	8:15	杉林間を進む先行トレースを見ながら進んでいるが、どっと汗が出る。
急登尾根で休む	9:15~9:20	先行トレースより左に進路を振り比較的登りやすそうなコース取りをしたが、少し尾根取付きが早かったようだ。雪庇の縁を進み、細い林を横切ってヤジマナ沢西上の尾根に上がる。標高900m地点より50m上で休む。更に急登が続く。
カモシカを見る	9:40	尾根が広くなり傾斜も緩んで来た。左右に一頭ずつカモシカが進んで行った。この後の樹林歩きでは樹氷が音を立てて落ちてくる。足元はエビの尻尾の積雪だ。
標高点 1 2 4 6	10:20~10:30	樹林を抜け出し休む。カヘヨノボッチと前岳を望む。先行者が登っている。
カヘヨノボッチ	11:10	通過。この手前で後続スキーヤーが追い付いて来た。立派な雪焼け男だ。
前 岳 通 過	11:35	立ち止まり少し食べる。後続者が先行する。寒くなって来た。早坂尾根を撮る。
浅草岳山頂	11:50着	前述の2人が話し合っている。少し先に進み、ピックルで風衝穴を掘りベンチテーブルを作る。田子倉湖を見下ろしながらランチタイム。男女2人がやって来た。写真を撮って貰う。ヤッケを着れば、寒さもしのげ、穏やかである。
早坂尾根へ下山	1:00発	先ほどの男女2人は新潟のデレシネ山岳会員と聞く。ムジナ沢からと言う。早坂尾根と一緒に下山しよう誘う。話決まって、5人で下山開始。
ネズモチ平 P と展望台が見えた		雪面は固い。スノーシューでの下りは足首に負担が掛かる。途中から壺足で下る。所々クラストしていて、足を滑らせ尻餅をついた。尾根の左に寄って、沢を覗くと展望台が見えた。案外近くに見えて下れそうだが、そこからの林道歩きは約2時間近くを要するので右に進路を戻して下る。
H1206 過ぎの沢		右下に田代平に続く沢の源頭部まで来て、沢を覗き、地図で位置を確認する。
枝尾根急降下		△1145.9 まで進むべきところを、少し手前の枝尾根を降り始めてしまった。なるべく右方向へと行かなければと思うのだが、楽な左下方に向かってしまう。途中で抜かって来てスノーシューを履く。杉混じりの林を下るうち小沢に出くわす。
林道に降りる	3:10	左右に迷走しながら、漸くここに。本沢と右沢の合流部の手前の枝沢に掛かる橋がある。予定下降点のおよそ300m手前だった。一昨年より深い地点である。
右沢に掛かる小橋	3:35	右岸から左岸に渡る。この手前で杉植林地の上に台地が見える。ここから上がれそう。林道歩き途中から日差しが出て来た。雪が腐って来て重たい。
大自然館 P	4:25	車は我々の物のみ。誘ったデレシネの2人を待つ。20分以上待って国民宿舎までの車回収に乗せて行ってやる。帰宅後、中野とみよしのへ。

3年目の早坂尾根だ。まずまずの天気予報で視界が利かなくなることは無いだろうと思い、当日の朝、早坂尾根下山を提案した。昨年のルートポイントを入力しておき、それに沿って下山するはずだったが、ナビ画面を見ながら進んでも一つ尾根を間違えて下るとなかなか修正が出来なかった。思いのほか入山者が少なく、静かな山行だった。